

2017年度 卒業式式辞

中京大学長 安村 仁志

本日ここに卒業式が挙行されるにあたり、学長として、まず、卒業される皆さんに対し、学びを支え・見守ってこられたご家族の皆さま、教育・指導にあたってきた教職員、ご臨席の理事会・来賓の方々とともに心より祝意を表します。「コングラチュレーションズ！」この語は、皆で共に喜ぶということで、その思いがいっぱいにこもった言葉です。「おめでとうございます」

皆さんは、いま、所定の学びを終え、社会に出ようとしています。その先には学歌三番にある渺瀰たる世界が広がっています。「渺瀰たる」とは、水が限りなく広がっているさまです。満々と広がる海は、世界の隅々につながる無限の可能性を秘めています。しかし、時には大波をもって先を阻もうとします。まさに、人生を象徴している感があります。門出にあたり、皆さんに、イギリスの詩人ワーズワースのことばを贈り、わたくしの思いを伝えたいと思います。

Life is divided into three terms ----

that which was, which is, and which will be.

Let us learn from the past to profit by the present,  
and from the present to live better in the future.

William Wordsworth

人生は三つの期間 —— 過去、現在、未来に分けられる。現在を活かすために過去から学び、この先をより良く生きるために現在から学ぼう。

皆さん、卒業という「いま」に立って、自身にとっての「過ごした時」を振り返ってみてください。長くは生まれてから今日までということになりますが、中京大学に入学してからに限定してみましよう。

皆さんは中京大学という私学に学び、今それを終えようとしています。その重みを活かすため、少し振り返ってみましよう。一九五四年に短期大学として創立された時、入学生は僅か七五名でした。以来発展し、いま年に三千人の学生が十一の学部に入學する、総合大学になり、卒業生は十三万人にならんとしています。各地の同窓会に出て、初期に学ばれた方々のお話を聞くと、涙が出るほど感動します。まだまだ中京大学と言う名が知られていなかったとき、「他大生に負けてなるものか」と高い志をもってチャレンジを続け、さまざまな分野に進出し、苦勞して道を切り拓かれました。まさにパイオニアでした。それに続く方々は、その小徑を一步一步踏み固め、

大きな道にしてこられました。教員になって教育界で活躍しておられる方々が大勢おられます、公務員、中にはキャリア官僚になっている方、研究者になっている方もあります。そして、大事なことに、卒業生の一人ひとりが国内外のあらゆる分野で活躍しておられます。

スポーツの面でも同じです。無名の名古屋の一大学の選手たちはまだまだ粗末な施設で人の何倍も練習に励み、全国に・世界に「中京」の名を挙げていかれました。その結果、本学の学生・出身者のオリンピック出場者は述べ百二十人ほどになっています。今回の平昌オリンピックでも、スポーツ科学部の堀島行眞君、宇野昌磨君を含め五人が出場し、宇野君は最初の失敗にもめげず、そのあとはまさに平昌だけに見事にピョンと跳び、チャンと降り、四回転を連続して成功させ銀メダルを得ました。

こうした目立った活躍をした人たちだけが卒業生ではありません。全国津々浦々で与えられた仕事に地道に向かい、社会を支えている方々、家庭にあつて夫を支え、子育てに励んだり、仕事についておられる女子卒業生の一人ひとりが本学の発展の力となっているのです。皆さんは、こうした礎の上に「今」の学びをされたのです。歴史の伝統が生きて働く場で学生生活を過ごしたのです。

いま、何を学び、何を身につけられたか思い巡らしてください。自分ではなかなか実感できないかもしれませんが、確実に専門知識を獲得するとともに、中京大学の息吹の中で、社会・世界・人間を見る眼を身に着けることができている筈です。学んだことは、嘘はつきません。自信を持ってください。また、多くの出会いを通して生涯の友を得ている筈です。大事にしてください。

しかし、明日からは皆さんの本学での学びは、ある意味で「過去」に位置づけられますが、それはワーズワースのことばにあるように、これからの長い人生を活かす糧になります。私は、それが自分のためだけでなく、共に生きている人たち、これから生まれてくる人たちと社会、世界をより良くすることにつながる力となるようにしていただきたいと切に願います。それはみんなで力を合わせてすることではありません。一人ひとりが、それぞれの生きる場で本学の卒業生として、持てる力を活かし、人として真摯に、精一杯生きていくことであります。

最後に今回のオリンピックを巡って、本学が大事にしていることを確かめてみたいと思います。建学の精神の四大綱はご存知かと思いますが、「ルールを守る」が第一です。今回“ドーピングは許さない”が厳格に守られました。マイナス〇度以下の強風吹きすさぶ中で選手たちは、第二の「ベストを尽くす」姿を見せてくださいました。また、メダルに結実したパシュート、カーリングでは、第三の「チームワークを

作る」の意味が見事にあらわされていました。最後の「相手に敬意を持つ」の精神は、五〇〇メートルで勝利した小平選手の、次に滑る人がいるのだから「静かに！」と合図を送り、勝てなかったライバルの選手に近づき、肩を抱き言葉をかけたあの姿に表されていました。これらの四大綱、すなわち古今東西、どの分野、どの場面でも通用する大切な精神が本学の教育の根幹にあるのです。

皆さん、これを誇りにしてください。そして、これを大切に生きて生きることにより、世界が一步でも良くなるように活かしてください。

もう一度繰り返します。

「現在を活かすために過去から学び、この先をより良く生きるために現在から学ぼう。」

皆さんの旅立ちと前途が祝されますよう、心からエールを贈ります。

Bon voyage ! Gute Reise. Buen viaje !

Счастливо го пути ! 一路平安(Yílù píng'ān)

See you again!